

みやぎエコ体験プログラム

ほら、やってみらいん!





# はじめに

## 「環境の世紀」

といわれる今世紀。恵み豊かなみやぎの環境を後世に引き継いでいくことは、私たちの責務です。

宮城県では、企画提案公募により選定された財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワークとのパートナーシップのもと、環境学習の推進に取り組んでいます。本書は、その一環として、「2002年(平成14年)国際エコツーリズム年」と時を合わせ、行政とNPOが共同で環境保全型自然体験活動(エコツーリズム)推進のため開発した「エコ体験プログラム」です。

県内外を問わず、広くご活用いただければ幸いです。

“ほら、やってみよう!(やってみよう)”エコ体験プログラム。

このプログラムは、宮城県とNPOとのパートナーシップのもとに、世代を超えた環境配慮行動を推進するための環境学習を整備することを目的として、(財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)が宮城県と一緒に作り上げてきた環境学習プログラムです。

いまの地球環境の状態を人間の健康にたとえたとしたら、「病気になる」と考えている人が7割に達すると新聞紙上で発表されています。その一方で、私たちは便利なモノを大量に購入しゴミを大量に廃棄し続け、およそ環境に配慮したライフスタイルとはいえない生活を続けています。環境学習や環境教育が大事な課題になっていることを誰もが認めています。知識や情報を積み重ねるだけでは突破口が見いだせない状況になっています。

みやぎエコ体験プログラムは、地域の環境保全に日頃から取り組み、地域の文化を継承・創造している方々を紹介するだけでなく、地域での取り組みを実際に体験して交流していく中で、くらし・地域・環境を大切にすることを考えることを目的としています。

宮城県は自然環境が豊かで観光資源にも恵まれた土地ですが、このプログラムを通して私たちが暮らす地域の環境や文化、歴史を紹介することにより、自らの地域の資源を再発見し、大切に発展させていく人づくりの機会になればと考えています。

平成15年3月

宮城県環境学習プログラム検討委員会  
委員長 木村美智子

## この冊子の作成コンセプト

- 1 宮城県において地域の環境保全に取り組み、活動している人々との交流や、その取り組みを体験することによって、地域や環境の大切さを学ぶためのガイドとなるよう作成しました。
- 2 上記目的を踏まえ、本当の意味での環境学習が出来るよう、環境に配慮した取り組みをしている"人"を中心に取り上げさせていただきました。環境学習プログラム検討委員会で現地調査し、取材した人のみを掲載しています。
- 3 地域の受け入れ先の方々の思いが伝わるよう、紹介文はご自身にご記入いただき、なるべく原文のまま掲載しました。

※以上のコンセプトに基づき作成したため、ご紹介した先は必ずしも団体等の受け入れ体制が整っている場所ばかりではありません。ご連絡をとられる際はその点を踏まえ、掲載内容をよくご確認の上でお願いいたします。



# 体験学習への誘い

## 「森は海の恋人」

かき 牡蠣の森を慕う会 畠山重篤

私たちが体験学習の受け入れを始めて13年目を迎える。

今まで受け入れた子どもたちの数は6千人を超し、最初の年訪れた子は大学を卒業する年代に差しかかっている。

時折便りをもらうことがある。先日も東京水産大学に進学しカナダで学んでいる学生が、海洋での植物プランクトンの発生のメカニズムで、北海道大学水産学部松永勝彦教授の鉄の理論が国際的に大きな評価を受けている報告をしてきた。

「カナダで気仙沼湾の名前が出てきた時には涙が出ました」と結んであった。

漁民による手づくりの海辺の教室は、子どもたちの心を打つものがあることは確かなようだ。

多分それは、マニュアル化されていない素朴な漁民の心が伝わっているからなのだろう。

各地で村おこしの発想で、体験学習の受け入れを計画していることを聞くが、机上に算盤が見え隠れしているのが気になる。

行政主導で計画されている場合でも、外からの受け入れに眼が向けられ、地元の子どもたちへの配慮がお座なりになってはいないだろうか。

その体験学習が評価されるのも、その地域の子どもたちにまず教育がなされているかどうかがかかれ目だと思っている。

暖かくなると今年も海辺の教室は子どもたちの歓声で賑やかになるだろう。

